別紙様式第1号別添

策定年月	令和5年3月
見直し年月	

麦・大豆国産化プラン

産地名：
近江八幡市・東近江市・日野町・竜王町

（作成主体：グリーン近江農業協同組合）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

1）大豆生産の現状と課題

①作付け面積は、概ね横ばい傾向で、単収は生産年により増減がある（年によっては、天候や台風の襲来などで収量の安定性に課題）
②ほとんどが水田での栽培であることと、播種時期が梅雨と重なることから排水不良による湿害が散見される
③近年異常気象により、播種適期の逸失から単収に影響がでている
④生産調整面積の増大による地力低下、担い手への集積が急速に進み１経営体あたりの作業面積が拡大したことによる適期作業の逸失

2）大豆の生産性向上に向けた方針

①水田をフル活用した２年３作（米→麦→大豆）輪作体系として麦跡大豆を推し進める
②需要が見込める品種の選定
③排水対策の徹底を軸に、土づくり、適期適正播種、病害虫・雑草防除、適期収穫など基本技術の励行：地道な営農指導
④収量および品質の向上を図る
⑤共同乾燥施設利用向上

※ 麦・大豆生産における課題（湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等）を具体的に記載すること。
※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

3）課題解決に向けた取り組み・計画

①麦跡大豆の作付け推進・・・麦跡に何も作付けをされない農事組合法人への作付け推進

1.農地有効活用として、麦+大豆の二毛作推進により、農家所得増大を提案

2.前作の小麦では、農林61号より収穫時期が早いびわほなみへ転換したことにより、降雨を回避できるなど融通の利いた播種作業が可能となる

②「ことゆたかA１号」への品種転換：

（実需から求められている品種、生産現場でメリットが見いだせる品種）

1.「ことゆたか」→「ことゆたかA１号」：難裂莢性品種「ことゆたかA１号」へ転換することにより、圃場で大豆が莢からこぼれにくくなり、生産者の 収穫の融通性が向上することと収量確保に繋がる

2.「タマホマレ」→「ことゆたかA１号」：大粒率が向上し、農家所得増大に繋がる

③栽培基本技術の励行：営農指導の実践

1.土づくり：有機物の投入：牛糞堆肥が困難な場合、凝縮堆肥を提案し地力維持に努める
土壌改良資材の投入：生育に最適な土壌環境

2. 雑草対策：耕起前の茎葉処理剤 → 耕起・播種 → 土壌処理剤 → 以降、慣行管理
圃場での早期発見・早期防除（発見したら密度の少ないうちに速やかな防除）

3.排水対策：梅雨時期であり、雨が降ることを前提に圃場準備、麦の排水溝を再活用

4.播種準備と丁寧な作業：種子更新・種子消毒、圃場準備：耕起・砕土・整地

5.中耕培土：土壌の通気性改善、不定期根の発生促進による養水分吸収増大・生育促進
排水性向上による湿害防止

6.病害虫防除：適期防除指導・速やかな情報伝達

④共同乾燥施設

1.品種誘導策として、荷受取り扱い品種を「ことゆたかA１号」へ集約：令和６年

2.良品質調製に向けた整備：レーン増設・クリーナー・クリーンセパレータの導入

※ 麦・大豆生産における課題（湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等）を具体的に記載すること。
※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

２. 産地と実需者との連携方針

１）JAグループの大豆販売方針

①短期的ビジョンでは、消費が好調な納豆や豆腐加工品などの分野を中心とした固定需要の拡大を図る
②長期的ビジョンでは、大豆ミート等の新たな加工食品開発による新規需要の開拓に取り組む
③世界的な穀物相場の上昇や円安、物流混乱などから特に外国産使用比率の高い実需者に対して推進を図る

２）販売に関する方針：JA全農しがを通じた販売

①JA全農しがを通じた計画販売に準じ、円滑な集出荷を目指す
②結び付いている実需者への継続的な販売推進
③市場ニーズを捉えた商品開発に伴う滋賀県産銘柄の生産拡大
④JA全農しがを通じ、産地の作柄や品質を実需者と情報共有を図る

３）ことゆたかA1号の実需：

①用途：1.主に豆腐・油揚げの原料
2.ゆばの原料
3.中粒は、納豆の原料
②要望・意見等：1.豆腐用としての加工適正は概ね良好
2.納豆原料の場合は裂皮がない中粒を希望

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。
※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。
なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。
※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

２．産地と実需者との連携方針

４）産地と実需者それぞれの取扱量の現状（Ｒ３年産）と概ねの目標（Ｒ６年産）

令和３年産

産地名称	ＪＡ名称	販売先	銘柄	① 数量（俵）	② kg単位（①×60kg）	希望等	用途	③ 概ね目標数量（俵）	④ kg単位（③×60kg）
滋賀	グリーン近江農業協同組合	A社	ことゆたかＡ１号	1,500	90,000	中粒等級品	納豆	2,469	148,140
滋賀	グリーン近江農業協同組合	B社	ことゆたかＡ１号	500	30,000		豆腐	823	49,380
滋賀	グリーン近江農業協同組合	C社-1	ことゆたかＡ１号	400	24,000			658	39,504
滋賀	グリーン近江農業協同組合	C社-2	ことゆたかＡ１号	300	18,000			494	29,628
滋賀	グリーン近江農業協同組合	D社-1	ことゆたかＡ１号	1,300	78,000			2,140	128,388
滋賀	グリーン近江農業協同組合	D社-2	ことゆたかＡ１号	1,500	90,000		豆腐・厚揚げ（冷凍）	2,469	148,140
滋賀	グリーン近江農業協同組合	D社-3	ことゆたかＡ１号	3,700	222,000			6,090	365,412
滋賀	グリーン近江農業協同組合	E社	ことゆたかＡ１号	330	19,800			543	32,591
滋賀	グリーン近江農業協同組合	F社	ことゆたかＡ１号	660	39,600		豆腐	1,086	65,182
滋賀	グリーン近江農業協同組合	G社	ことゆたかＡ１号	360	21,600			593	35,554
滋賀	グリーン近江農業協同組合	H社	ことゆたかＡ１号	165	9,900	小粒希望	きな粉	272	16,295
滋賀	グリーン近江農業協同組合	I社	ことゆたかＡ１号	2,000	120,000			3,292	197,520
JA全農しがを通じて販売されている当JAの大豆ことゆたかA1号				12,715	762,900			20,929	1,255,733

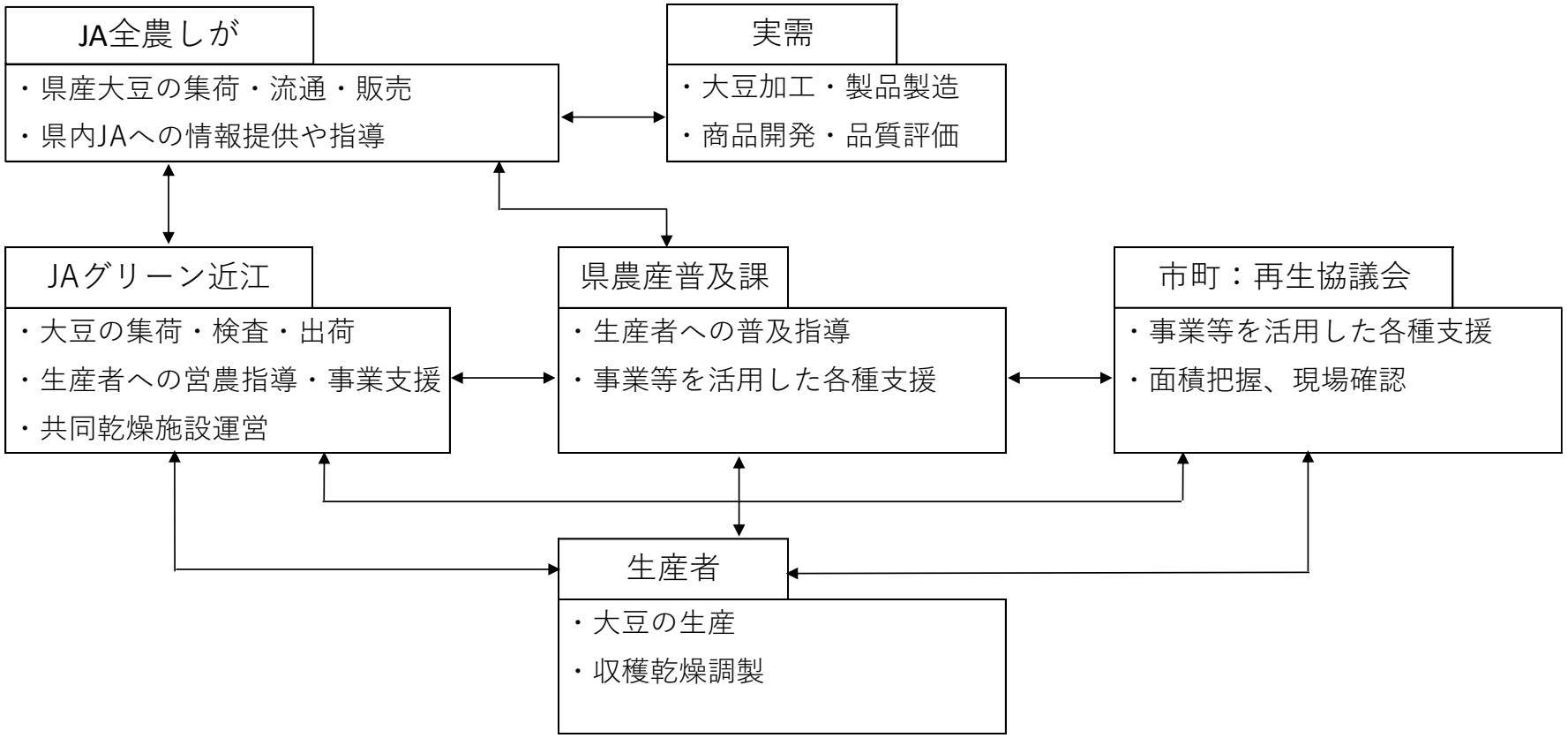
JA全農しがから提供された資料を基に作成

※ 表③概ね目標：令和６年産ことゆたかＡ１号 出荷の見通し1,255,700kgを元に算出

※　産地と実需者については具体的な名称を記載すること。
※　麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。
※　大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。
　なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。
※　産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割

推進体制及び各関係者の役割



※　産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。
※　取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。